

本書の利用法

問題 17 ヴェーバー（Weber, M.）が類型化した支配の形式に関する次の記述のうち、**正しいものを1つ**選びなさい。

- 1 合法的支配は、法規化された秩序や支配者の命令権の合法性に対する信念に基づいて行われ、服従は主観的・人格的秩序への服従という形態をとる。
- 2 支配者が抱く正当性の信念の違いに基づいて、3つの支配類型が示された。
- 3 古くから認められてきた神聖化された人への恭順に基づく支配を、**この設問の出題意図とポイントを示しています**。
- 4 官僚制という形態は、合法的支配の類型とみなされる。
- 5 支配の類型は、合法的支配の類型であり、支配関係は現実には様々な形態をとる。

アプローチ：社会の近代化に伴い、秩序を維持する支配の方法はどのように変化したかについて理解しているかを問う設問である。支配の3類型についての知識に加え、ヴェーバーの方法論について把握しておきたい。

選択肢考察：×1 合法的支配における服従は、法そのものへの**没主観的・非人格的服従**という形態をとる。

×2 3つの支配類型は、**服従者が抱く正当性への信念の違い**に基づいている。

×3 設問に**各選択肢について正誤の根拠を説明しています**。ある。カリスマの支配は、支配者の人格と正当性への崇拜や服従によって成立する。

×4 官僚制は合法的支配の類型とみなされる。

○5 設問に**この設問の出題意図とポイントを示しています**。理念型は、**ヴェーバーの方法論**の一つである。純粋な概念としての理念型を練り上げ、現象と比較して社会を理解しようとする。

正解 5

設問に関連のある重要事項を解説しています

essential point <支配の3類型と官僚制>

近代社会では、社会の秩序を維持する支配の方法は、前近代社会にみられる封建的な主従関係から、法や規則の正当性を根拠とするものへと変化していった。ヴェーバーは支配の方法として3つの類型を示し、近代化が進展するにつれて伝統的支配から合法的支配へと移行すると主張した。また、近代社会では産業化の発展によって組織の規模が大きくなり、合理的な管理・運営の方法が必要となってくる。ヴェーバーは近代に特徴的な組織とその支配のありように注目し、官僚制の特徴を描き出した。